



トガリネズミラヴァー
六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 21 「サケ後期群」

過去の「広報しらぬか」を見返したら去年も2月号は冬のサケに関する話でした。せっかく野生生物の宝庫である北海道に移り住んだのに毎年同じような撮影をしているんだなあと少し考えさせられました。でも、同じものを見続けることで気付く自然界の変化や新たな魅力もきつとあると思っています。とは言え、今年は今まで撮ったことのない白糖ならでの生き物の撮影にも挑戦する予定です。お楽しみに！



真冬に遡上してきたサケ



足が凍るハシボソガラス

前期群と後期群

秋、川に上るサケたちのことを前期群（ぜんきぐん）、冬に上るサケを後期群（こうきぐん）と呼びます。

前期群と後期群の産卵期は最大で4カ月以上も離れています。それにも関わらず、両方の稚魚が海に降りるタイミングは同じです。しかも、メスは川底を掘

って産卵するので、前期群の卵は後期群のメスに掘り返されてしまうのでは？と心配になりましたが、必ずしもそうはなりません。不思議ですよ。

サケの卵は1日の平均水温を毎日合計して、その温度が480度に達すると孵化する仕組みになっています。母サケは、卵を産む場所の水温や水流を適切に見極め、前期群ならゆっくり

成長できる場所に、後期群なら早く成長できる場所に産み分けることで、稚魚は皆同じタイミングで海へ降り、そして両群が維持されているらしいのです。母サケ、すごい！

後期群が支える命

気温マイナス20度近くまで下がったこの日、繁殖を終えたサ

ケの死骸を食べにきたのはハシボソガラスです。陸上の水分という水分が凍る中、夢中でサケをついばんでいました。したたかであくましいガラスと言えども、足を凍らせながら必死に生きています。ちなみに、生き物によつてサケの体の中で好きな部位が違います。ガラスの大好物は目玉。いつも一番先に食べます。キツネやクマは後頭部から食べることが多いように思います。きっと人間とは味覚が違うのですね。

PROFILE

六田晴洋

ろくたはるひろ



1986年生まれ。

2021年に白糖町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。 <https://rokutaharuhiro.com>